

令和6年度 第77回卒業証書授与式(式辞)

ここ鳥羽台にも、ようやく春の訪れを感じるこの佳き日に、本校第七十七回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、PTA 会長様、暁美会会長様をはじめ、ご来賓の皆様には公私の中、ご臨席をいただき厚くお礼申し上げます。

また、保護者等の皆様におかれましては、卒業生の門出を祝うためにご出席をいただき、誠にありがとうございます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました271名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが晴れの卒業を迎えられたのは、皆さん一人ひとりの頑張りはもちろんのこと、クラスや部活動等で互いに切磋琢磨し、支え合った友人や、熱心にご指導してくださった先生方、そして、いつも温かく見守ってくださった ご家族の存在があったからこそだと思います。そうした周りの方々に、是非、心からの感謝の気持ちを今日は伝えて欲しいと思います。

さて、平成十九年に普通科から単位制総合学科へと改編しました本校は、普通科目に加えて、将来を見据えた様々な特色ある選択科目や「産業社会と人間」「課題研究」などの総合学科ならではの学び、そして、国際理解教育や地域貢献活動、防災ジュニアリーダーを核とした防災教育、部活動などに力を入れ、幅広い視点から高校生にとって必要な資質・能力の育成に、地域や関係機関と連携しながら「チーム明南」で取り組んできました。

入学以来、こうした本校の教育方針・教育目標をよく理解し、1年次は新型コロナウイルス感染症の影響も受けましたが、日々の授業や文化祭・体育祭、総合学科発表会などの学校行事、部活動等に意欲的に取り組んでくれた卒業生の皆さんは、様々な体験や経験を通して、この3年間で本当に大きく成長しました。

部活動においては、大会やコンテスト等で活躍する運動部・文化部の様子を見聞きすることが多くありました。こうしたことは、卒業生の皆さんが強いリーダーシップを発揮して、それぞれの部を引っ張ってくれたおかげだと思います。各クラブが「One Team」となり、ひたむきに一つのことに打ち込む姿勢、あきらめない気持ちやフォア・ザ・チームの心、感謝する気持ちなど、皆さんが部活動をとおして、これまで経験してきたことは、高校時代だけで終わるものではなく、今後の生き方や考え方に大きな影響を与える、お金では買うことができないかけがないの財産となるものと確信しています。

学習面においても、卒業後、すぐに社会に出る人、大学や短大・専門学校に進む人など、進路は様々ですが、日々、皆さんの夢実現に向けて、熱心に取り組む姿を目の当たりにしま

した。一足早く社会人となる皆さんには、明南で培ったコミュニケーション力や課題解決力、仲間と協同する力、等を存分に発揮し、それぞれの職場で求められる存在となる活躍を期待しています。一方、大学や短大・専門学校に進学する皆さんには、「自らの果たすべき役割・使命」を自覚し、それぞれの道でしっかりと勉学に励み、その道のスペシャリストとなるよう、高みを目指して欲しいと願っています。また、現在、国公立大学志望者など入学試験の最終段階に来ている皆さんには、志望校に合格できるように最後まで諦めることなく粘り強く頑張ってください。

これから十年、二十年後の社会は、予測できないくらい急速かつ、大きな変化を遂げていることでしょう。「予測困難な時代を迎え」という現代社会を象徴する定番フレーズは耳にたこができるくらい皆さんはよく耳にしている定型句となっていますが、逆転の発想をすると、「予測できる時代」がイレギュラーであり、これから「予測困難な時代」が当たり前になると解釈することもできます。つまり、これからは様々な不測に備えて生きることが求められ、少子・超高齢社会をどう生き抜くかということが問われているのではないのでしょうか。科学技術の発展は、生活を豊かでよりよいものにしてくれるという期待の一方で、今までとは異なる課題や問題も伴います。それは、政治や経済においても同じことです。人と人工知能・生成AIとの共存が求められる時代を生きる皆さんにとって、大切なことは、自分を知ること。過去・歴史を知ること。世界を知ることです。あらゆるものに対し、広い見識と関心をもって、平和で豊かな社会・持続可能な社会の方向性を地球規模で語れる若者であってもらいたいと思います。

そして、もう一つの願いは、他者への感謝の気持ちや謙虚さを忘れず、多くの人を支え、幸せにできる人になってもらいたいということです。昨日発行のPTA広報誌「めいなん第100号」にも書きましたが、良い時も悪い時もどんな状況下であっても、「感謝する心と謙虚さ」を持ち続けて欲しいのです。その根底にあるのは、『今、ある全てのことに感謝』することであり、そのことを常に忘れないで行動してください。これまでの当たり前の生活は、自分一人で築けてきたものばかりではないのです。家族、先生、友達、先輩・後輩、近所の人、今まで出会ってきた全ての人たちや全ての出来事・経験に感謝して言動することを心がけてください。そして、その言動が自然体になることが大切です。その振る舞いにより、皆さんの周囲にたくさんの方が集い、良き理解者・協力者を身近に感じることになるはずです。人に嫌われる生き方よりも、人から好かれる生き方をするということです。

これから先、行く先々で苦しいことや厳しい現実に向き合うことが多々あると思います。卒業生の皆さんにとって、これからの人生が順風満帆となることを願っていますが、決して追い

風ばかりが吹くことはないでしょう。皆さんの夢実現のためには、今まで以上に強い意志と行動が必要になります。人生において、正解は一つだけではありませんし、その時点では正解かどうかはわかりません。しかし、皆さん自身の生き方、進むべき道を主体的にどう捉え、どうしていくのか、という「最適解」をいろいろな視点や方向から導き出すことは可能です。そのためには、「トライ&エラー」の精神を養うことが大切です。失敗を恐れず、諦めず挑戦を繰り返すことです。「今、やらずに後悔するよりも、やって後悔することで悔いはなし」という考えで行動し、同じ失敗でも悔いの残らない失敗をしたいものです。失敗は何も恥ずかしいことではありません。成長には不可欠な要素です。最後まで自分を信じて、決して自分で自分の限界を作らないように、皆さんが自分の気づいていない可能性を最大限に発揮できるように、諦めずにまずは自分自身に挑戦することから始めていきましょう。

でも不安に思うことはありません。皆さんはこの明南での3年間において仲間や先生らとともに、しっかりと社会に対応できる学びや経験を通じて、この卒業式を立派に迎えることができた、やり遂げた人たちだからです。自信を持って、社会に羽ばたいてください。いよいよ明南から巣立つときがやってきました。名残惜しいですが、お別れの時です。

最後になりましたが、保護者等の皆様には、本日のお子様のご卒業は感慨もひとしおのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。また、この三年間、教職員一同、力をあわせ、お子様の教育にあたってまいりましたが、至らぬことも多く、ご心配をおかけいたしました。そのような中であっても、保護者等の皆様には時には厳しく、時には優しく、お子様を励まし、支えていただくとともに、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

校歌の一節に「自主独立の 理想に燃えん 燦として 未来かがやく 協同親和の 輪をつくり 大いなる 未来ぞ展く」とあるように、77回生の皆さんが自主独立と協同親和の精神でそれぞれの道で夢を実現するために、様々なことに生き生きと、そして、ひたむきに挑戦し、輝く未来を切り開いていけるよう心から祈念し、式辞といたします。

令和7年2月27日

兵庫県立明石南高等学校長 織 邊 剛